

最近の酪農情勢（メモ）

令和 4 年 9 月 16 日
日本酪農政治連盟

I 外交交渉

1. 日EU・EPA交渉

2018年7月17日：安倍総理はドナルド・トラスク欧州理事会議長及びジャン＝クロード・ユンカー欧州委員会委員長との間で第25回日EU定期首脳協議及び少人数会合を実施し、日EU経済連携協定（EPA）及び戦略的パートナーシップ協定（SPA）に署名したと発表した。

2. TPP交渉関連

2018年8月：日米両政府は9日新たな貿易協議（FFR）の初会合をワシントンで開催した。米国側は自由貿易協定（FTA）を念頭に2国間交渉を要求。日本側は環太平洋連携協定（TPP）復帰を改めて促し、双方の考えの肌当たりが改めて浮き彫りになった。

2019年1月：米国を除く環太平洋連携協定（TPP）参加国11か国は、19日、協定の運営を担うTPP委員会の初会合を東京都内で開いた。同委員会は、協定発効後の最高意思決定機関。国内手続きを完了し、60日たった「締約国」が正式メンバー。現時点では、メキシコ、日本、シンガポール、NZ、カナダ、オーストラリア、ベトナムの7か国が該当する。

2021年6月：イギリスがTPP参加交渉開始を発表

2021年9月：中国、台湾が相次いでTPP参加を表明

2021年12月：韓国がTPP加盟手続き開始を表明

3. 日米TAG交渉関連

2019年8月：自民党は20日、TPP・日EU・日米TAG等経済連携協定対策本部を開催し、ヤマ場を迎える日米貿易協定交渉への対応を協議した。出席議員からは、環太平洋連携協定（TPP）を超える農産品の市場開放を回避するよう求める意見や、期限ありきの交渉に釘を刺す声が上がった。（フランス南西部ビアリッツで24～26日に開催されるG7サミットに合わせた日米首脳会談で、合意に達するのではないかとの見通しがある）

2019年9月：26日農林水産大臣の談話が発表された。それによると、「本日、安倍総理とトランプ大統領が首脳会談を行い、日米貿易協定の最終合意に至った。農林水産品に係る日本側の関税について、TPPの範囲内とすることができた。我が国の国民の主食であるコメについて、関税削減・撤廃等からの「除外」を確保した。また、脱脂粉乳・バターなど、TPPでTPPワイドの関税枠が設定された品目について、新たな米国枠を一切認めなかった。さらに、牛肉についてTPPと同内容の関税削減とし、2020年のセーフガードの発動規準数量を昨年度の米国からの輸入実績より低い水準とした」などとなった。

4. 日英EPA交渉関連

2020年8月：茂木敏充外相と英国のトラス国際貿易相は7日、ロンドンで閣僚協議を行い、日英間の経済連携協定（EPA）の締結に向けて8月末までに大筋合意を目指すことで一致した。

2020年9月：茂木外相は11日、日本と英国の新たな経済連携協定を巡る交渉が大筋合意に達したと発表

II 令和4年度畜産酪農対策

令和4年度畜産物価格・関連対策については、①補給金及び集乳調整金の単価は、経営意欲、担い手意欲を促す価格となるよう決定すること、②交付対象数量は国内の乳製品の需給状況を考慮し適切に決定すること、③加工原料乳等生産者経営安定対策事業は継続すること、などを要請した。

結果は、補給金単価が10.85円、対象数量は345万トン、所要額は374億円（前年所要額据え置き）となった。尚、集送乳調整金は2.59円/kg、加工原料乳生産者補給金は8.26円/kgとなった。

【指定肉用子牛】	保証基準価格	合理化目標価格
乳用種	164,000円/頭（164,000円）	110,000円/頭（110,000円）
交雑種	274,000円/頭（274,000円）	216,000円/頭（216,000円）

III 令和5年度政府農林予算2兆6,808億円（前年比117.6%）で決定（概算要求）

令和4年8月24日、自由民主党の総合農林政策調査会、農林部会、農政推進協議会の合同会議は、令和5年度農林関係予算2兆6,808億円を決定する。

同会議において、日本酪農政治連盟は団体要請を実施。①輸入乾牧草に依存する酪農経営に対する支援、②高騰する配合飼料価格に対する適切な対応・支援の継続、③上昇している（化学）肥料の価格に対する適切な対応・支援、④補給金制度対策、⑤酪農後継者の担い手確保対策、⑥鳥獣被害対策、⑦乳用牛預託事業対策、⑧自給飼料対策、⑨家畜排せつ物処理施設等対策、⑩産業獣医師確保対策、⑪自然災害対策、を重点項目として要請を展開した。

主な酪農関連対策

- ・畜産・酪農経営安定対策 {2,234億円（2,234）}
- ・環境負荷軽減等の取組の推進 {71億円（70）}
- ・国産飼料の生産拡大・飼料の安定供給 {15億円（9）}
- ・ICTを活用した畜産経営体の生産性の向上 {10億円（10）}
- ・畜産高品質堆肥生産流通促進支援事業 {1億円（0）}
- ・飼料穀物備蓄・流通合理化事業 {19億円（18）}
- ・鳥獣被害防止対策 {127億円（101）}

IV 関東生乳販連 令和4年度飲用向け等乳価は11月期中改定で合意

関東生乳販連は、令和4年度の飲用向けとはっ酵乳向けの乳価について11月1日出荷分より10円/kg値上げすることで大手メーカー3社と合意した、と令和4年7月20日に発表した。

V 酪農家戸数 13,300 戸 (R4. 2/1 現在 畜産統計. 農水省 7/12 発表) () 内は前年

	酪農家戸数[戸]	乳牛飼養頭数[千頭]	一戸当たり飼養頭数[頭]
全 国	13,300 (13,800) 3.6%減	1,371 (1,356) 1.1%増	103.0 (97.6) 5.5%増
北海道	5,560 (5,720) 2.7%減	846 (830) 1.9%増	152.1 (145.2) 4.7%増
都府県	7,740 (8,180) 5.3%減	524 (526) 0.3%増	67.7 (64.5) 4.9%増

VI 配合飼料価格 (配合飼料給与、3.3 t/年・頭→1万円上がれば33,000円の負担増)

R1年 1～3月期 500円上げ。4～6月期 850円下げ。7～9月期 400円下げ。10～12月期 650円下げ。R2年 1～3月期 700円上げ。4～6月期 800円下げ。7～9月期 800円下げ。10～12月期 1350円上げ。R3年 1～3月期 3900円上げ。4～6月期 5500円上げ。7～9月期 4700円上げ。10～12月期 1250円下げ。R4年 1～3月期 3900円上げ。4～6月期 4350円上げ。7～9月期 11400円上げ。

VII 最近の酪政連活動 《主な活動、下記は一例です。》

政府・国会 その他	酪政連・関係機関
R3年	R3年
1月 新型コロナウイルス感染者急増に伴い、感染者数増加が著しい都府県を対象とした緊急事態宣言が発令される	4. 21 三役会議・中央委員会・坂本哲志大臣講演会 5.11～12 要請活動(衆 衆・参議院会館)
3月 1月に発令された緊急事態宣言が解除される	5. 26 正副委員長会議 (WEB開催) 終了後、衆議院議員開館にて要請活動(衆 衆議院・参議院会館)
4月 大阪、宮城等において感染者が急増し「まん延防止等重点措置」が発令される	6. 14～15 要請活動(於 衆・参議院会館、農林水産省)
4. 25 東京都・京都府・大阪府・兵庫県に3度目となる緊急事態宣言が発令される	7. 20～21 北海道酪農協会要請活動に随行(農林水産省・衆・参議院会館)
5. 12 東京都・京都府・大阪府・兵庫県に発令されていた緊急事態宣言が延長となる。また新たに福岡県、愛知県にも発令される	8. 2 農林水産省訪問 森畜産局長へ令和4年度酪農関連対策・予算要請を行う(於 農林水産省)
6. 15 野党4党より内閣不信任案が提出されたが、与党の反対多数により否決	8. 3 正副委員長会議 (WEB開催)
7. 12 新型コロナウイルス感染者急増に伴い、感染者数増加が著しい都府県を対象とした4度目となる緊急事態宣言が発令される。	8.24 農林・食料戦略調査会、農林部会、農政推進協議会合同会議において要請を行う(於 自民党本部)
9. 3 菅首相が自民党総裁選への不出馬を表明	8.26 三役会議、自由民主党酪政会総会 中央委員会(於 衆議院議員会館)
9. 17 自民党総裁選が告示。河野太郎規制改革相、岸田文雄氏、高市早苗氏、野田聖子幹事長代行の4名が立候補	9.16～17 北海道酪農協会 要請活動(衆・参議院会館、農林水産省)
9. 29 自民党総裁選線が行われ、岸田文雄氏が第27代自民党総裁に選出された	10. 5 農林水産省 森畜産局長へ乳製品在庫解消に関する要請を行う(於 農林水産省)
10. 4 臨時国会が召集され、岸田文雄氏が第100代内閣総理大臣に首班指名される。また、組閣が行われ、金子原二郎氏が農林水産大臣に、武部新、中村裕之氏が副大臣に就任	10. 17～30 衆議院選挙 推薦候補陣中見舞い(全国各地)
10. 14 臨時国会閉会。衆議院解散	11. 10～11 北海道酪農協会要請活動に随行(農林水産省、衆・参議院会館)
10. 17 第49回衆議院選挙公示	11. 16 自民党農林・食料戦略調査会、農林部会の合同会議における団体要請において佐藤委員長より令和4年度税制改正について要請を行う
10. 31 衆議院選挙投票、自民党が小選挙区で189議席、比例代表で72議席 計261議席を獲得「絶対安定多数」を確保尚、本連盟から推薦した候補者156名中、146名が当選した。	11. 25 三役会議・自民党酪政会・中央委員会(於 参議院議員会館)
11. 10 特別国会が召集。首班指名において岸田首相が第101代内閣総理大臣に指名され、第2次岸田内閣が発足	11. 26 自民党九州酪政会 総会(於 自民党本部)
	12. 7 農林・食料戦略調査会、農林部会、農政推進協議会合同会議において要請を行う(於 自民党本部 委員長)
	正副委員長会議(於 酪農会館)
	12. 14 畜産振興議連総会において令和4年度畜産物価格等要請(於 衆・議院議員会館 委員長)

<p>R4年</p> <p>2月 新型コロナウイルス(オミクロン株)による感染者が急増し、新規感染者は10万人超/1日を連日記録する。都道府県において「まん延防止等重点措置」が発令される</p> <p>2. 24 ロシアはウクライナへ侵攻を開始する。政府はロシアに対して経済制裁を順次発動 自民党は、輸入に依存する飼料や肥料等の価格高騰、海外の食料需要の拡大を踏まえ、食料の自給率や安定供給につながる制度や対策を検討する「食料安全保障に関する検討委員会」を設置し、議論を始める</p> <p>2. 25 農林水産省は、「食料安全保障に関する省内検討チーム」を立ち上げる</p> <p>3月 岸田首相は、燃油や輸入資材の価格高騰に対する5千億円規模の経済対策を4月末までに取り纏めることを発表</p> <p>4月 都道府県すべてで「まん延防止等重点措置」が解除される</p> <p>4. 28 政府は「原油価格・物価高騰等総合緊急支援」を閣議決定。総額は1兆5110億円。うち、配合飼料価格安定基金の積み増し435億円、肥料の安定調達・価格高騰への対策として100億円</p> <p>5. 31 自由民主党は、総合農林政策調査会、食料安全保障に関する検討委員会・農林部会、畜産・酪農対策委員会合同会議を開催し、団体からの要請を受ける</p> <p>5. 31 政府は「新しい資本主義」の実行計画案を提示、農業分野では食料安全保障の強化を目指す</p> <p>6. 14 自由民主党は、総合農林政策調査会、食料安全保障に関する検討委員会・農林部会、畜産・酪農対策委員会合同会議を開催し、畜産緊急対策について了承する</p> <p>6. 22 第26回参議院選挙公示</p> <p>7. 10 参議院選挙投票、自民党が選挙区で45議席、比例代表で18議席 計63議席を獲得。本連盟から推薦した候補者38名中、34名が当選した</p> <p>8. 3 臨時国会が召集される</p> <p>8. 10 岸田首相は内閣改造を実施。野村哲郎氏が農林水産大臣に就任、勝俣孝明氏と野中厚氏が副大臣に就任</p> <p>8. 18 自由民主党は、総合農林政策調査会、農林部会合同会議を開催し、令和5年度農林関係予算概算要求の重点事項について議論する</p> <p>8. 24 自由民主党は、総合農林政策調査会、農林部会、農政推進協議会合同会議を開催し、令和5年度農林関係予算概算要求の重点事項・予算概算について議論する</p> <p>9. 9 政府は、酪農経営を圧迫する輸入粗飼料・配合飼料などの価格高騰に対して緊急支援を検討すると発表。</p>	<p>R4年</p> <p>2. 2 三役会議 (於 酪農会館)</p> <p>2. 14 監査会 (於 酪農会館)</p> <p>2. 25 国産バター消費拡大運動 (於 衆参議員会館)</p> <p>3. 2 特別要請 (於 衆・参議員会館、農林水産省)</p> <p>3. 9 令和4年度通常総会/書面総会 (於 酪農会館) 中央常任委員会 (於 酪農会館)</p> <p>4. 5 自民党総合農林政策調査会・農林部会合同会議において、配合飼料や輸入粗飼料の価格高騰への対策や肥料の安定供給等について特別要請を行う (於 自民党本部) 公明党農林水産部会において、配合飼料や輸入粗飼料の価格高騰への対策や肥料の安定供給等について特別要請を行う (於 参議院議員会館)</p> <p>4. 6 正副委員長会議、併せて、農水省牛乳乳製品課との意見交換会 (於 酪農会館)</p> <p>4. 18 九州酪農政治連盟協議会 要請活動 (於 農林水産省牛乳乳製品課等と意見交換会、金子原二郎大臣を訪問)</p> <p>4. 19 三役会 (於 参議院議員会館) 中央委員会 (於 自民党本部) 終了後、各ブロックによる重点要請活動 (於 衆参議員会館)</p> <p>5. 10 酪政連東北ブロック協議会 要請活動 (於 農林水産省牛乳乳製品課等と意見交換会、財務省・鈴木俊一大臣を訪問)</p> <p>5. 25～26 北海道酪農協会 要請活動 (於 衆・参議員会館、農林水産省)</p> <p>5. 31 自由民主党の合同会議(左記)において、佐藤委員長、柴田副委員長は飼料・肥料等の資材価格高騰に対する支援を要請 (於 自由民主党本部)</p> <p>6. 8 三役会、自由民主党酪政会総会、中央委員会 (於 衆議院第一議員会館)</p> <p>6. 14 自由民主党の合同会議(左記)に坂本幹事長が出席する。さらなる対策の実施を要請する (於 衆議院第二議員会館)</p> <p>6. 22～7. 9 参議院選挙 推薦候補陣中見舞い (全国各地)</p> <p>7. 19～20 輸入粗飼料の価格高騰に対する支援を含む緊急特別要請書にもとづく要請活動 (於 衆・参議員会館)</p> <p>7. 27 三役会 (於 酪農会館)</p> <p>7. 27～28 北海道酪農協会 要請活動 (於 衆・参議員会館、農林水産省)</p> <p>8. 1 九州酪農政治連盟協議会 要請活動 (於 衆・参議員会館)</p> <p>8. 4 酪政連東北ブロック協議会 要請活動 (於 衆・参議員会館)</p> <p>8. 8 佐藤委員長は農水省畜産局長へ酪農支援を要請 (於 農林水産省)</p> <p>8. 9 正副委員長会議 (於 酪農会館) 中国地区酪農政治連盟協議会 要請活動 (於 衆・参議員会館)</p> <p>8. 23～24 佐藤委員長は、輸入粗飼料、配合飼料、肥料等の価格高騰に対する支援を要請 (於 衆・参議員会館)</p> <p>8. 24 自由民主党の合同会議(左記)において、佐藤委員長は輸入粗飼料、配合飼料、肥料等の価格高騰に対する支援を要請 (於 自由民主党本部)</p> <p>9. 7 三役会 (於 自由民主党本部) 「酪農危機を突破するための全国酪農民緊急特別集会」を開始する。全国より酪農家等189名、衆参国会議員115名(内、代理50名)が出席する。(於 自由民主党本部)</p>
---	--

I 生乳・牛乳・乳製品等の動向

1. 生乳受託販売量・用途別処理量〔中央酪農会議、年度・月別〕

〔単位：千トン、(前年同月比%)〕

年度月	合計		北海道		都府県		飲用向け		発酵乳等向		特定乳製品向		生クリーム等向		チーズ向	
	千トン	%	千トン	%	千トン	%	千トン	%	千トン	%	千トン	%	千トン	%	千トン	%
31(R1)	6,988.9	100.4%	3,928.3	102.5%	3,060.6	97.8%	3,204.1	97.7%	467.5	100.2%	1,590.7	107.5%	1,313.3	98.3%	401.8	100.2%
R2	7,067.7	101.1%	4,006.9	102.0%	3,060.8	100.0%	3,252.2	101.5%	467.6	100.0%	1,689.2	106.2%	1,246.0	94.9%	411.7	102.5%
R3	7,234.2	102.4%	4,135.6	103.2%	3,098.6	101.2%	3,189.4	98.1%	454.2	97.1%	1,855.7	109.9%	1,297.9	104.2%	435.0	105.7%
R4.4	618.7	101.5%	347.6	102.9%	271.0	99.6%	255.8	98.4%	38.5	98.5%	178.0	105.9%	108.7	104.1%	37.5	98.5%
R4.5	639.5	100.6%	361.8	101.7%	277.6	99.3%	271.4	97.0%	39.5	97.9%	178.5	105.1%	109.9	101.4%	40.0	108.6%
R4.6	606.4	99.8%	347.4	100.1%	259.0	99.4%	273.1	96.0%	38.8	96.9%	149.0	105.3%	107.5	101.8%	37.9	105.3%
R4.7	606.6	100.4%	352.9	100.5%	253.7	100.2%	270.4	99.8%	39.9	100.0%	143.9	100.6%	112.3	99.2%	40.0	107.9%
R4.8	589.6	99.0%	347.2	99.9%	242.3	97.8%	258.2	98.3%	39.3	100.5%	147.2	98.2%	107.2	99.3%	37.6	105.3%

2. 生乳生産量・用途別処理量〔農水省、年度・月別〕

〔単位：千トン、(前年同月比%)〕

年度月	飲用牛乳等						処理内容								市乳化率 (B/A)
	合計[A]		北海道		都府県		牛乳等向け				乳製品向け		その他		
	千トン	%	千トン	%	千トン	%	[B]		うち業務用向け		千トン	%	千トン	%	
31(R1)	7,363.2	101.1%	4,092.6	103.3%	3,598.7	108.3%	3,996.9	99.8%	340.5	101.0%	3,321.0	102.8%	44.4	94.8%	54.3%
R2	7,434.8	101.0%	4,159.3	101.6%	3,275.5	91.0%	4,056.2	101.5%	296.8	87.2%	3,354.7	101.0%	44.1	99.4%	54.6%
R3	7,645.6	102.8%	4,311.0	103.6%	3,334.6	101.8%	3,995.9	98.5%	314.7	106.0%	3,599.1	107.3%	49.1	111.3%	52.3%
R4.4	656.9	102.0%	363.7	103.4%	293.2	100.3%	327.7	100.1%	25.9	102.4%	325.5	104.3%	3.7	90.2%	49.9%
R4.5	678.5	101.3%	379.4	102.5%	299.0	99.7%	344.9	99.0%	26.6	104.3%	329.7	103.9%	3.7	90.2%	50.8%
R4.6	642.8	100.3%	363.8	100.9%	279.0	99.7%	343.1	97.6%	23.7	98.3%	295.5	103.8%	3.8	90.5%	53.4%
R4.7	645.4	101.0%	371.8	101.5%	273.5	100.3%	344.4	101.3%	23.9	99.2%	297.2	101.1%	3.8	90.5%	53.4%

3. 飲用牛乳等生産量〔農水省、年度・月別〕

〔単位：千ℓ、(前年同月比%)〕

年度月	飲用牛乳等									乳飲料		酵乳		乳酸菌飲料		
	合計		牛乳		加工乳・成分調整牛乳					千ℓ	%	千ℓ	%	千ℓ	%	
	千ℓ	%	千ℓ	%	合計		加工乳		成分調整牛乳							
31(R1)	3,562.3	100.0%	3,158.1	100.1%	404.2	98.8%	125.0	124.9%	276.9	89.6%	1,137.5	102.1%	1029.6	97.0%	116.4	93.7%
R2	3,636.2	102.1%	3,256.3	103.1%	379.9	94.0%	86.9	143.9%	284.7	102.8%	1,087.7	95.6%	1053.7	102.3%	113.8	97.7%
R4.4	292.3	100.8%	260.8	100.6%	31.4	101.6%	5.4	90.0%	21.1	96.8%	87.0	99.0%	82.0	90.8%	10.2	100.0%
R4.5	307.6	99.1%	275.3	99.0%	32.2	99.7%	5.5	83.3%	21.8	95.2%	90.2	102.6%	83.8	92.7%	10.7	104.9%
R4.6	306.2	97.9%	274.7	97.8%	31.5	99.1%	5.5	59.1%	21.5	95.6%	91.1	98.5%	82.9	83.7%	11.2	87.5%
R4.7	302.9	99.6%	270.2	99.6%	32.6	99.4%	5.4	55.7%	22.7	102.7%	93.9	96.9%	83.4	93.5%	11.8	111.3%

4. バター、脱脂粉乳の生産・在庫状況

R4年7月生産量: バター5.7千トン(前年比102.8%)、脱脂粉乳11.8千トン(前年比96.5%)

R4年7月末在庫量: バター41.0千トン(前年比97.5%)、脱脂粉乳99.8千トン(前年比111.6%)

ALIC「牛乳・乳製品」

	バター生産(トン)		脱脂粉乳生産(トン)	
	生産量	前年比	生産量	前年比
R1	65,496	109.7%	130,508	108.7%
R2	70,937	108.3%	140,439	107.6%
R3	75,084	104.9%	159,710	114.0%
R4.4	7,411	105.0%	15,245	107.9%
R4.5	7,318	103.1%	15,080	107.6%
R4.6	6,234	109.0%	12,732	105.5%
R4.7	5,718	102.8%	11,875	96.5%

5. 生乳・生産物・配合飼料価格の推移(前年同月比)

農水省「農作物価指数」

	総合乳価 [円/10kg]		乳廃牛 [円/生体1kg]		子牛(千円/頭)						乳用牛配合飼料 (千円/トン)	
	価格	前年比	価格	前年比	ホル雄		交雑種		ホル雌		価格	前年比
R1	1,046	101.8%	296.4	116.2%	117.7	89.9%	258.2	105.6%	383.4	88.5%	70.0	99.6%
R2	1,056	100.9%	271.2	95.8%	108.9	67.9%	173.7	88.9%	348.7	92.1%	71.5	101.6%
R3	1,046	99.1%	276.7	102.0%	103.3	94.9%	170.9	98.4%	294.3	84.4%	83.5	116.8%
R4.4	1,010	97.8%	249.5	83.2%	101.5	86.4%	170.6	100.7%	258.6	72.2%	91.0	114.0%
R4.5	1,015	98.5%	261.6	87.5%	115.2	94.4%	178.2	99.9%	207.4	67.2%	91.1	114.2%
R4.6	1,032	99.5%	320.9	109.1%	117.3	87.5%	178.7	90.7%	201.1	61.3%	89.1	111.1%
R4.7	1,033	98.1%	324.5	102.7%	84.8	65.2%	155.7	70.8%	172.3	52.0%	99.5	117.9%

1. 乳子牛価格について、ホルオスは生後7~10日、ホルメスは生後6カ月程度。F1オスについては、道内11市場における加重平均。

2. 配合飼料価格は、小売店頭等での購入価格。

3. ()内は年度平均価格については対前年度比、月平均価格については対前年同月比。

II 牛肉、子牛価格の動向

1. 7月推定出回り量73千トン(前年比93.7%)、推定期末在庫量150千トン(前年比115.5%) 【単位:千トン(前年同月比%)】 ALIC「牛肉需給表」

年度 月	生産量			輸入量			国内生産量の割合	推定出回り量				
								合計	うち輸入量	うち国産品		
31(R1)	329,648	99.0%	616,506	99.5%	34.8%	936,940	100.7%	613,414	102.1%	323,527	98.1%	
R2	335,549	101.8%	589,958	95.7%	36.3%	930,161	99.3%	563,112	98.7%	328,165	101.4%	
R3	336,114	100.2%	569,137	96.5%	37.1%	886,983	95.4%	559,383	99.3%	327,601	99.8%	
R4.4	29,766	102.5%	61,521	111.3%	32.6%	92,576	110.9%	61,963	111.8%	30,613	109.0%	
R4.5	26,751	105.1%	45,754	92.2%	36.9%	67,166	97.5%	41,654	94.5%	25,512	102.7%	
R4.6	27,678	103.5%	57,663	110.4%	32.4%	73,258	99.3%	46,376	96.5%	26,882	104.5%	
R4.7	30,088	102.0%	51,999	100.0%	36.7%	73,260	93.7%	44,252	89.0%	29,008	101.9%	

2. 乳子牛(ホルstein)価格の推移 <農水省農業物価指数> 【単位:円/頭(前年同月比%)】

農水省「農業物価指数」

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
30	116,000	129,900	148,800	157,600	152,200	145,100	132,200	120,200	108,100	120,400	123,100	116,800	130,867
	142.2%	137.4%	141.6%	140.0%	130.2%	111.6%	111.5%	117.6%	116.1%	118.6%	108.0%	97.8%	121.8%
31(R1)	103,600	109,300	130,700	141,100	134,600	134,500	135,400	115,000	103,000	96,700	99,770	102,000	127,788
	89.3%	84.1%	87.8%	89.5%	88.4%	92.7%	102.4%	95.7%	95.3%	80.3%	81.0%	87.3%	97.6%
R2	98,800	115,000	126,300	115,500	124,400	130,900	121,500	113,500	121,500	85,540	98,620	100,900	112,705
	95.4%	105.2%	96.6%	81.9%	92.4%	97.3%	89.7%	98.7%	118.0%	88.5%	98.8%	98.9%	88.2%
R3	90,920	106,600	114,600	117,500	122,000	134,100	129,900	96,540	88,490	88,760	92,730	94,700	106,403
	92.0%	92.7%	90.7%	101.7%	98.1%	102.4%	106.9%	85.1%	72.8%	103.8%	94.0%	93.9%	94.4%
R4	80,740	95,960	98,890	101,500	115,200	117,300	84,830						
	88.8%	90.0%	86.3%	86.4%	94.4%	87.5%	65.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

■肉用子牛基金: 31年度→乳用種=保証基準価格161,000円、合理化目標価格108,000円、交雑種=同269,000円、同212,000円。但し、令和元年度10月からの消費税増税(8→10)に伴い、乳用種=保証基準価格164,000円、合理化目標価格110,000円、交雑種=同274,000円、同216,000円へ期中改定。

R2年度→乳用種=補償基準価格164,000円、合理化目標価格110,000円、交雑種=同274,000円、同206,000円

R3年度→乳用種=補償基準価格164,000円、合理化目標価格110,000円、交雑種=同274,000円、同216,000円

R4年度→乳用種=補償基準価格164,000円、合理化目標価格110,000円、交雑種=同274,000円、同216,000円

III 飼料等の動向

【単位:円/トン(前年同月比%)】

農水省「農業物価指数」

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
30	68,910	68,810	68,840	70,060	70,110	71,340	71,370	71,370	71,420	70,800	70,710	70,700
	102.1%	101.8%	101.9%	103.4%	103.5%	104.2%	105.5%	105.9%	106.0%	105.6%	105.3%	105.3%
R1	70,380	70,350	70,400	69,620	69,590	69,620	69,440	69,410	69,420	70,200	70,310	70,310
	102.1%	102.2%	102.3%	99.4%	99.3%	97.6%	97.3%	97.3%	97.2%	99.2%	99.4%	99.4%
R2	71,180	71,250	71,410	70,470	70,450	70,320	69,840	69,820	69,850	71,330	71,380	71,400
	103.3%	103.5%	103.7%	100.6%	100.5%	98.6%	97.9%	97.8%	97.8%	100.7%	100.9%	101.0%
R3	74,550	74,740	74,740	79,810	79,830	80,220	84,420	84,590	84,540	83,170	83,160	82,960
	104.7%	104.9%	104.7%	113.3%	113.3%	114.1%	120.9%	121.2%	121.0%	116.6%	116.5%	116.2%
R4	86,520	86,630	86,930	91,050	91,120	89,130	99,560					
	116.1%	115.9%	116.3%	114.1%	114.1%	111.1%	117.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

■配合飼料販売価格の改定幅と補填の実施状況

【単位:円/トン(補填交付金)】

	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
30	1,500(0)	1,100(300)	1,550(3,450)	▲800(2,300)
R1	500(300)	850(0)	▲400(0)	▲650(150)
R2	700(0)	▲800(0)	▲800(0)	1,350(0)
R3	3,900(3,300)	5,500(9,900)	4,700(12,200)	▲1,250(8,500)
R4	3,900(5,200)	4,350(9,800)	11,400(未定)	

穀物需給見通し（米国農務省9月13日発表）

1. 世界の穀物需給の概要

(1)小麦・・・世界の生産量は、ロシアでの収穫面積、単収、生産量がいずれも史上最高となり、ウクライナでも単収が引き上げられたこと等から、前年度を上回り史上最高となる見通し。世界の消費量は、ロシアやEUで主に飼料用その他需要の引き上げにより前月から上方修正されたが、前年度は下回る見通し。世界の生産量は消費量を下回り、期末在庫は前年度を下回る見通し。なお、ウクライナの前年度生産量は前月より上方修正されたが、輸出量は前月から変更はない見通し。

(2)大豆・・・世界の生産量は、米国で単収、収穫面積が引き下げられたこと等から、前月から下方修正されたものの、南米での増産見通しから前年度を上回り、史上最高となる見通し。世界の消費量は、米国で搾油量が引き下げられたが、中国の需要量は前年度を上回る見通し。世界の生産量は消費量を上回り、期末在庫量は前年度を上回る見通し。

(3)とうもろこし・・・世界の生産量は、中国やウクライナで単収が引き上げられたが、米国で単収、収穫面積が引き下げられたことに加え、EUで単収が引き下げられたことにより下方修正され、前年度を下回る見通し。世界の消費量は米国で飼料用需要が引き下げられ、前年度を下回る見通し。世界の生産量は消費量を下回り、期末在庫量は前年度を下回る見通し。なお、ウクライナの前年度生産量、輸出量はともに前月から上方修正された。

2. 米国の穀物需給情勢（米国農務省）

小麦 生産 4,852万トン
 需要 5,288万トン
 期末在庫率31.4% 期末在庫1,660万トン(前年度比92.4%)

大豆 生産 1億1,916万トン
 需要 1億2,065万トン
 期末在庫率4.5% 期末在庫5.44万トン(前年度比83.3%)

トウモロコシ 生産 3億5,419万トン
 需要 3億6,260万トン
 期末在庫率8.5% 期末在庫3,095万トン(前年度比79.9%)

■シカゴ相場〔ドル/ブッシェル〕

農水省「穀物等の国際価格の動向」

	トウモロコシ	大豆	小麦
2021年5月14日	7.7	16.2	7.7
2021年6月4日	6.8	15.8	6.9
2021年7月1日	7.0	17.7	6.5
2021年8月6日	5.6	17.7	7.2
2021年9月10日	5.1	12.8	7.1
2021年10月10日	5.4	12.5	7.6
2021年11月10日	5.5	11.9	7.7
2021年12月3日	5.9	12.7	7.9
2022年1月7日	6.1	14.0	7.6
2022年2月4日	6.2	15.5	7.6
2022年3月7日	7.6	16.8	13.5
2022年4月4日	7.4	15.8	9.8
2022年5月6日	7.9	16.6	11.0
2022年6月3日	7.3	17.7	10.4
2022年7月1日	7.5	16.3	8.3
2022年8月5日	6.1	16.2	7.8
2022年9月6日	6.7	15.1	7.9

■為替相場〔東京、円/ドル〕

	対ドル 円相場
2021年5月14日	109.37
2021年6月4日	109.49
2021年7月15日	109.49
2021年8月6日	110.89
2021年9月20日	109.47
2021年10月15日	114.05
2021年11月17日	114.89
2021年12月20日	113.38
2022年1月18日	114.95
2022年2月18日	114.02
2022年3月18日	118.74
2022年4月12日	125.35
2022年5月16日	128.96
2022年6月10日	134.48
2022年7月4日	135.41
2022年8月16日	133.31
2022年9月7日	144.20

■海上運賃〔米ガルフ→日本、穀物、パナマックス(5~8万トン級)、ドル/トン〕

【R1年平均48.74、R2年平均45.12、R3年平均65.57】

R1年11月平均=48.64 12月平均=50.11 R2年1月平均=52.35 2月平均=48.22 3月平均=46.58 4月平均=41.11 5月平均=40.21 6月平均=43.10 7月平均=49.97 8月平均=51.96 9月平均=48.69 10月平均=49.63 11月平均=48.84 12月平均=50.78 R3年1月平均=52.73 2月平均=53.91 3月平均=56.35 4月平均=54.91 5月平均=62.21 6月平均=63.26 7月平均=79.96 8月平均=74.74 9月平均=76.52 10月平均=79.09 11月平均=66.72 12月平均=66.51 R4年1月平均=60.84 2月平均=59.61 3月=70.42 4月平均=73.12 5月平均=76.87 6月平均=76.32 7月平均=67.64 8月平均=58.10 9月平均=49.21